

特集

ささいな行動が、変革につながる

“自分ごと”にする

SDGs

2030年までに世界が取り組むべき「SDGs」は、桑名市でもその取り組みが進行しています。今号では、市の取り組みに加え、市民の皆さんが行っている活動をご紹介します。できることから行動することが、目標達成につながります。

問 この記事については秘書広報課(☎24-1492 FAX 24-1119)

そもそもSDGsとは?



今、世界中で直面している多くの課題。気候変動や環境問題、貧困、紛争、人権などさまざまですが、これらは一部の国や人が取り組んでも解決することができません。そこで、世界のみなで課題解決に取り組もうと掲げられたのが「SDGs(持続可能な開発目標) / エス・ディー・ジーズ」です。2030年を達成年限とし、17の目標と169のターゲットから構成されています。

- 02 キラリ★くわな人
- 03 特集 ささいな行動が、変革につながる “自分ごと”にするSDGs
- 08 桑名水郷花火大会をみんなの力で盛り上げよう
- 09 「太陽光パネル・蓄電池」の共同購入の参加者募集
- 10 子育て広場 図書館・六華苑・博物館
- 12 メディカルニュース くわな防災教室
- 13 かんたん旨レシピ みんなの掲示板
- 14 EVENT ALBUM(イベントアルバム)

- 16 春の叙勲、危険業務従事者叙勲
- 17 くわなINFO
- 24 無料相談
- 25 デジタルファースト 取りくみレポート 市長まちなか探索
- 26 HAPPY BIRTHDAY 桑名のイトコ教えてください。

今月の表紙

今回の撮影場所は、柿安シティホール。三重県産材の杉材、ヒノキ材と桑名市産材の竹材を使った階段の前で撮影しました。桑名の竹はここでも活躍しています!



キラリ★くわな人



フットゴルフワールドカップ2023 日本代表 ゆうか 桐生 侑花さん

桐生さんは、5月27日からアメリカ・オーランドで開催されるフットゴルフワールドカップ2023の日本代表に選ばれました。フットゴルフは、ほぼゴルフと同じルールで、ゴルフ場でサッカーボールを使い、サッカーボールが入る大きさの穴に入れて競うスポーツ。欧米を中心に普及し始めてきている新しいスポーツです。桐生さんは子どものころからサッカーボールでよく遊んでいた上に、大人になってからはフットサルをしていたので、体を動か

すことが大好きだったそうです。ある時、SNSでフットゴルフを知り、興味を持ったことがきっかけで、3年前にやり始めました。ゴルフ場でサッカーボールを蹴ることができる爽快感と、思い通りに穴に入れられた時の達成感が病みつきになり、一生懸命練習してきたそうです。日本代表に選ばれたと聞いたときは「本当に誇らしく思い、もっと多くの人にフットゴルフというスポーツを知ってほしい」と思ったそうです。「日本代表ががんばることで知名度を上げるきっかけになると信じてがんばってきます」と意気込みを語っていただきました。



photo by naka



「エコ」をテーマに多様な活動を展開
ながしまエコの会



リサイクル推進から
地域貢献まで

廃食用油を利用したせっけん作りから活動をスタートした「ながしまエコの会」ですが、今では施設の慰問や資源ごみ回収の分別、障害者による選別作業の就労支援など、徐々に活動が広がっていきました。2009年には環境大臣賞を受賞。現在は40～70代の男女13人が在籍し、体調や個人の予定などによって無理なく活動を続けています。加藤さんは「ごみの分別は一人一人が意識すれば簡単にできること。『エコプラザながしま』では資源ごみを持ち込むことができます。ぜひ利用してください」と話してくれました。



4月26日に三重県SDGs推進パートナーに登録されました。地域の皆さんとともに取り組んでいきたいです。

代表 加藤 敏男さん



ながしまエコの会ブログ
活動状況、新着情報などをブログで紹介しています。



世代を超えたコミュニケーションを生む
わくわくフレンズくわな子ども食堂



今日は何カレー？
大人も子どももわくわく

子どもたちに手作りご飯を食べてほしいと2016年に誕生。今では多世代交流の場となり、大人も子どもも集まって食事をしたり、おしゃべりしたり。子育てに関する悩み相談ができるほか、地域ぐるみで子どもの成長を見守る雰囲気も醸成されます。メニューはカレー。その日に寄付として集まった食材を見て作ります。寄付してくれるのは農家、店舗、企業、個人とさまざまです。「現在、市内に大きなフードバンクはありません。備蓄倉庫を設けて、寄付いただける食材を困っている人に行き渡るようにしたい」と吉岡さんは夢を語ります。



子どもの笑顔が一番のやりがい。困っている人向けのフードパントリーも行っています。

代表 吉岡 真弓さん



ご支援・ご協力お待ちしております！
食材や、お金の寄付、子ども食堂のお手伝いなど随時募集しています。



意識が行動を変え、
桑名を変える
できることから

SDGs

昔から続けている活動が、実はSDGsにつながっていることも。「誰かのために、何かのために」と桑名市で活動する4団体を紹介します。

土砂災害を防ぎ、生態系も守る
桑竹会

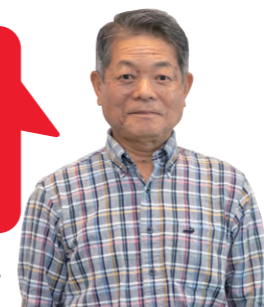


春にはタケノコ掘り！
竹の有効活用にもチャレンジ

タケノコの産地でもある桑名では、高齢化による放置竹林が600ヘクタールあると言われています。里山を守るため、現在52人の会員が竹林整備に奮闘。伐採した竹はその場で粉碎して肥料としてまきほか、大きな竹はポラス炭(土壌改良剤)を作り販売します。春にはタケノコを掘って販売も。「竹林を放置するとイノシシの隠れ家になってしまうので、整備は獣害対策にも有効です。桑竹会では年間2ヘクタールの竹林整備を行っていますが、竹林整備では何より『継続』が大切。一人でも多くの人に興味を持ってほしい」と、酒井さんは話してくれました。

桑名の竹を使ったテーブル&チェアが、柿安シティホールや桑名福祉ヴィレッジに設置されています。

副理事長 酒井 重信さん



会員募集！

毎週水曜日、土曜日に竹林整備をしています。少しでも参加できる人や、竹を愛するイベント制作に参加できる人を募集しています。年会費1,200円。

入会・見学
申し込み



中学生による自主活動
サステナ部



「売り物」にすることの難しさを
中学生が体感

中学生12人が活動しているサステナ部は、部長の野崎さんが「東海道新幹線ヘッドレストカバーの経年劣化などによる入替廃棄が行われる」と耳にしたことがきっかけで立ち上がりました。「麻100%で、まだ利用価値があるのにもったいない」と思い、自分ができることはないかと模索。市の協力もあり、部活動として市全域から部員を募集することに。現在、10月の販売スタートに向けて商品開発を進めています。「カバーを再利用しつつ、商品としてニーズがあるもの考えるのが難しい」と野崎さん。ペンケース？弁当袋？などと、議論しながら活動しています。

学生でも社会の問題解決に役立てるのがうれしい。大人が思いつかないようなアイデアで、商品を作りたいです。

部長 野崎 遥香さん



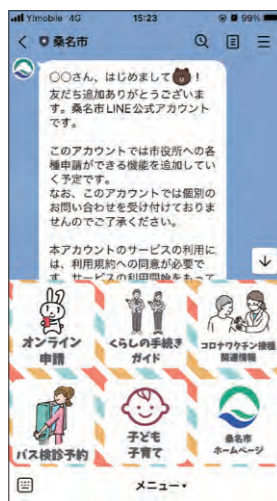
公式Instagramがスタート！
活動の様子などを随時アップしていきます。お楽しみに！



市民サービスの申請・手続きオンライン化

デジタル技術を使って、より便利になった市民サービス

市では現在、さまざまな手続きのオンライン化を推進しています。そのメリットは多く、「夜間、休日など、24時間いつでも手続きを行える」、「自宅やオフィス、遠隔地などどこからでも手続きできる」、「申請、届出などの用紙の入手が不要で、移動時間や待ち時間を節約することができる」などが挙げられます。



また、前年度記載した履歴を翌年度活用することで、書き写しが不要になる、申請内容によっては複数の手続きをまとめて申請することができるなど、データの利活用によって便利かつつながりのあるまちづくりを進めています。

オンラインでできること

- 住民票、戸籍謄本・抄本の請求
- マイナンバーカード受取予約
- 保育施設入所(園)の申込
- 市税をスマートフォンで納付
- 博物館 × DX 図録オンライン販売
- スクールランチ予約
- バス検診予約 など

問 スマートシティ推進課
☎24-1338 FAX 24-1435

粗大ごみの収集申し込みはオンラインで!

24時間365日いつでもスマートフォン、パソコンなどから粗大ごみの収集申し込みができます。オンライン決済対応のため、粗大ごみシール券を買う手間も省けます。ぜひ利用してください。

予約はこちら

※桑名市公式LINE、ごみ分別アプリ「さんあ〜る」からもアクセスできます。



問 環境対策課 (☎24-1436 FAX 22-5183)

のこさずくわな! by タベスケ



廃棄される食品を救え!

「本来、食べられるのに廃棄されてしまう食品」=食品ロスの問題は、世界的にも深刻です。そこで市では、事業系食品ロスの対策として「のこさずくわな! by タベスケ」の運用をスタートしました。これは飲食店や小売店などの協力店と、市民ユーザーをマッチングさせるサービス。協力店は作り過ぎた料理や食材、廃棄期限が迫っている食品を出品、気に入ったものがあったユーザーは、通常より安い価格で予約・購入ができます。協力店・ユーザー共に登録料などの負担は一切ありません。2023年3月末時点でユーザー数1500人以上、事業者は24店舗となっています。



詳細はこちら

買い物の仕方



協力店

くわなまちの駅/らいむショップ/かねき商店/シャディサラダ館益生駅前店/新鳥/なもパンDRAGON KITCHEN/川出酒店/和食処紀の川/石どり舎/魚城/本間製パン代理店住吉屋/九華はちみつ/Beer Bar TOBIRA/貝新フーズ株式会社/有限会社宏和/おまへの海鮮丼/総本家新之助貝新本店直売部/はあぶ工房 Together/アジアンキングサラダ館多度店こめぜん/貝新物産株式会社/アイリスふれあい農園/ケーキあまいちもんめ

問 環境対策課 (☎24-1436 FAX 22-5183)

市の取り組み

市が行っている取り組みもSDGsにつながっています。誰一人取り残さない持続可能なまちをめざして、取り組みを進めていきます。

MaaS 推進



少子高齢化、グリーン社会の実現などさまざまな課題の解決へ

少子高齢化に伴い多様化している地域課題を解決し、持続可能な公共交通施策を検討するため、MaaS (Mobility as a Service) や自動運転などの実証実験に取り組んでいます。桑名市役所〜桑名駅ルートの自動運転実証実験を令和元年に県内で初めて実施したのを皮切りに、さまざまな実証実験を実施。自動運転サービスの実現に向けた検討を進めています。

一方、コミュニティバス「Kバス」を運行していますが、便数の少なさや他路線の乗り換えが困難、慢性的な赤字経営など課題も少なくありません。そこでAI活用型オンデマンドバス「のーと」の実証実験も行いました。地域の課題とニーズを踏まえ、桑名市版MaaSを検討していきます。



桑名市役所〜桑名駅ルートの自動運転実証実験(令和元年度)



桑名駅〜柿安コミュニティパークのルートで、自動運転とVR観光を組み合わせた実証実験(令和3年度)

問 MaaS推進室 (☎24-1425 FAX 24-1412)

太陽光パネル設置



市内13カ所に太陽光パネルを設置 CO2排出量は年間約120トン削減

ゼロカーボンシティの実現に向け、4月から市内13カ所の公共施設にPPAという手法を活用して太陽光で発電できる設備を設置しています。太陽光で発電した電気を施設に使うことで、二酸化炭素の排出量を年間約120トン削減する効果があり、電気代の節約にもつながります。

また、今回設備を設置した施設は災害時には避難所となりますので、設置した太陽光パネルや蓄電池が予備電源として使用できます。災害時には蓄電池を使ってパソコンやスマートフォンの充電ができるほか、停電していても天気がよければ、太陽光パネルで発電した電力を直接コンセントから使用することも可能になり、市の防災力を強化する取り組みにもつながっています。



PPAとは?

PPA (Power Purchase Agreement: 電力購入契約) とは、市が貸した施設の屋根を使って事業者が太陽光で発電をしてもらい、その電気を市が購入する仕組みです。市は太陽光発電の設備を持つことなく、クリーンな電力を使用することができます。

問 グリーン資産創造課 (☎24-1229 FAX 24-6312)